・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　理事長さんのコラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

国連のグテーレス事務局長は2023年のこの夏を、「地球沸騰の時代が来た」とおっしゃいました。私は長く生きてすっかり老人になりました。戦前、戦後の食べ物に飢えて骨と皮に状態だった小学生は、敗戦で180度変化した社会や大人の姿を見てきました。「欲しがりません、勝つまでは」のことばは今も覚えています。78年前の1945年、広島・長崎に原爆が落とされ、新型爆弾と言われたものです。どんな爆弾だろうと思っていました。８月１５日には玉音放送が流れましたが、小学３年生には意味不明でした。「戦争に負けた！そんな・・・」

その夜、祖母が兵隊に行った息子２人が生きているのか、もしかしたら死んでいるのではないか、と泣きわめいていたのを思い出します。結局２人の青年（叔父）は戦死していました。祖父は気落ちしたようで以降、孫の私が見てもおかしいと思うくらい、どんどん呆けていきました。

子どもだった私たちは成長するにしたがって社会は大きく変化していきました。朝鮮戦争に一喜一憂し、警察予備隊に中卒の先輩が応募したとき，集落で祝って送り出していたのを見て、戦争時代に戻るような違和感を覚えました。‘５０年代は農村の子どもたちは中学を卒業すると、都会に出ていきました。「金の卵」ともてはやされたものです。

‘60年代は大学生たちが安保闘争を繰り広げ、‘64年東京オリンピックが開催されて女子バレーボールが日本中を沸かせました。’73年はオイルショック。スーパーで何回も並んでトイレットペーパーを買いました。’89年昭和天皇崩御。平成時代になります。’90年代バブルがはじける。好景気は一気に土地建物が下落。地下鉄サリン事件、阪神大震災、消費税 5%が導入、長野オリンピック等々、思い出は走馬灯の如く通り過ぎていきます。日本は豊かになり暮らしも便利になっていきました。

ききょう保育園が設立された５０年前は、どこの家庭も冷房はなく、あるのは扇風機くらいでした。夏はもちろん暑かったですが気温は３０度を超す程度でした。赤ちゃんたちは汗をかくので、午前と午後は沐浴させました。ウンチが出ていたら沐浴台のお湯で洗ったものです。

保育士たちは浴室が設置されていましたので、３１度以上に日は大汗をかくので一緒にお風呂に入って自分も体を洗い、そこで赤ちゃんを入浴させました。何てのどかだったことか。

今年の夏、ヨーロッパもアメリカも40度以上という信じられない気温になっているようです。数年前からアイスランドなど永久氷河が解けていくとは聞きましたが。素人ながら地球は今、危機の時代になっていると鳥肌が立ちます。異常な干ばつ、予期せぬ大雨、洪水、山火事発生。グテーレス事務局長は「地球沸騰」と表現されたのですが、このままでは動物も植物も生き物たちは生きていけない地球になっていくのでしょうか。

綿や麻、蚕、米や野菜、薪や炭など生活必需品を手塩にかけて作り育てていた時代から、２０世紀は機械文明の発達で急激に社会を変えてしまったのではないでしょうか。大宇宙の中で地球だけが水と森に恵まれている貴重な星です。人々が安心して暮らせる平和な次代を残せるのは、今の大人たちの責任ではないでしょうか。気温５０度ではみんな死ぬと思うのです。どうする人間！！